

from

ほうかつ

2024

令和6年1月発行

特集！ チーム（多職種連携）の中で大活躍の“ならは薬局”!!

～より身近な地域のかかりつけ薬局を目指して～

ならは薬局は、令和2年6月に開局し今年で4年目を迎えます。地域に根差した薬局として、よりよい地域医療の推進に向けた役割が期待されています。

檜葉町の地域包括ケアシステム（医療・介護サービス等が町全体で包括的に提供される体制）を実現し、町民の皆さんの健康を維持するうえでも、地域に密着した医療提供施設として薬局の存在は欠かせません。

今回は、多職種連携の中で活躍する“ならは薬局”の役割と現在の取り組みについて詳しくご紹介します！



ならは薬局の皆さん

ならは薬局の役割～服薬支援で町民の健康を守ります

薬局の果たす役割は多岐にわたります。ならは薬局では、患者さんが薬を正しく服用できるように、調剤時に丁寧な服薬指導（薬の名前、飲む際の注意点や効果の説明等）を行ったり、薬の飲み合わせのチェック等を行います。

また、患者さん一人ひとりの状況に応じて、薬の剤形変更（錠剤から粉剤への変更等）、服薬方法の簡便化（内服しやすいように薬を一包化する）や減薬等について主治医に提案したり、残薬の確認（処方通りに服用できているか、薬の飲み残しが残っていないか）等も行います。ならは薬局は、地域に根差した薬局として以下のような取り組みを行っています。

調剤や服薬指導・相談

医師の処方箋に基づく調剤（医薬品の説明と手渡し）や服薬指導、薬に関する情報提供を行ったり、市販薬との飲み合わせや薬の疑問・質問について相談に応じています。



多職種との連携による服薬支援

町内外の医療機関や介護支援専門員（ケアマネジャー）、地域包括支援センターをはじめとした福祉専門職等と連携を図り（多職種連携）、チームとして協力しながら町民の皆さんの服薬を支援します。



ならは薬局の主な取り組み

居宅療養管理指導（薬剤師による在宅訪問）

要介護状態等により服薬に課題を抱える方の自宅を訪問し、処方された薬を正しく飲んでいるか服薬状況を確認します。また、お薬カレンダーを活用して飲み忘れのないように指導や助言を行うなど、細やかな服薬支援を行っています。



学校や地域への普及啓発

学校薬剤師として、こども園での健康相談や保健指導、小中学生に向けた薬物乱用防止の教育等を行っています。また、地域ミニデイでも出前講座を開催し、町民の皆さんへ薬や健康に関する普及啓発を行っています。



ならは薬局が多職種連携の中で活躍した支援事例のご紹介



【事例】糖尿病のAさんは、服薬や食事の自己管理ができずに血糖値が高い状態にありました。だるさや軽い意識混濁が見られたため、地域包括支援センターが支援を進める中で、ならは薬局による居宅療養管理指導を導入することになりました。



ならは薬局による主な支援

- 薬をきちんと服用できていなかったAさんに「薬の一包化」と「お薬カレンダーの活用」を提案
- 検査データを用いながらAさんに現在の症状を繰り返し伝え、週1回注射の再開を打診
- 甘いものがやめられないAさんに、病状が進んだ時のリスクを丁寧に説明し意識向上を図る



効果

一包化により薬が飲みやすくなりお薬カレンダーを活用して飲み忘れが少なくなりました

Aさんに意識の改善が見られ、自己注射ができるようになりました

食事管理を心がけるようになり、高血糖値の改善が見られました

その後のAさんは・・・



薬剤師さんに言われてから、薬と注射を忘れなくなった。悪化しないように食事にも気を付けるようになったら、体調も血糖値も良くなってきた。「まだまだ元気でいたい！」と前向きになってきたよ。

上記事例のほかにも、

●家族からケアマネジャーへ服薬相談があり薬剤師につないだケースでは、薬剤師介入により薬に依存していた本人の減薬ができ症状が改善された

●薬剤師からケアマネジャーへ訪問先の高齢者の認知機能低下が報告されたケースでは、状況変化に薬剤師が気付いたことにより適切な介護サービスにつなぐことができた等の効果が見られています

医療と介護の連携チームで町の課題に取り組む！

～在宅医療・介護ワーキンググループのご紹介～

地域包括支援センターでは、地域包括ケアシステムの実現に向けて関係機関が地域課題を話し合う会議を開催しています。先日開催した「在宅医療・介護ワーキンググループ」では、町保健福祉課、ならは薬局や関係機関が集まり、ならは薬局が果たしている役割やその効果の検証を行いました。また、減薬や調剤量の減少等、薬剤師による居宅療養管理指導の効果をさらに充実させるため、今後の具体的な対策についてもしっかり確認しました。

地域包括支援センターでは、今後も地域課題に応じた様々なワーキンググループ（協議の場）を開催し、多職種と連携しながら課題の解決に向けて取り組んでいきます。

ミニ対談



地域包括支援センター 磐城センター長

ならは薬局 薬剤師 飯塚織恵さん

センター長：ならは薬局が開局して以来、身近なかかりつけ薬局として地域の皆さんに浸透していますね。

飯塚さん：処方箋がなくてもいつでも気軽に立ち寄っていただきたいです。健康相談やお茶飲みだけでも是非！また、薬剤師を通じて主治医に処方の提案等もできます。薬局をうまく活用し、皆さんの健康にお役立ていただきたいです。

センター長：服薬支援はとても重要。心強いですが！今後も医療と介護の連携を図っていききたいですね♪



高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156
〒979-0604 檜葉町大字北田字鐘突堂5-5（檜葉町保健福祉会館3F）
Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp

お気軽にご相談ください。



地域づくりの
今!



檜葉でのびのび子育てしたい!

～子育て座談会から聞こえてきた現状と展望～



生活支援コー
ディネーター
小林

先日、昨年度に続き2回目となる「子育て座談会」が開催されました(町保健福祉課主催)。座談会では、パパやママが仕事と子育ての両立に奮闘しているエピソードや子育ての楽しさ、子育てに必要な社会資源等について話し合われました。また、震災後休止中のファミリーサポートセンター事業(子どもの送迎や預かり等を地域住民と協力しあう仕組み)の再開についても活発な意見交換が行われました。今回はその様子をお届けします!

パパママに聞きました!

今楽しめていることは?

- 仕事から帰ってきて子どもと話す時間
- 子どもから学校での出来事を聞くこと
- 地域のお祭り
- 反抗期の息子への対応
- 平日のすき間時間やママ友とのランチ会
- 子どもと一緒に習い事 etc....

檜葉での子育てについて

- 自分が生まれ育ったこの町で、自分の子どもも育てることが嬉しい
- 近所のおじちゃん、おばちゃんが声をかけてくれたり、目をかけてくれることが嬉しい
- 新しいママ友が増えていくことを楽しく感じている
- 自然豊かな檜葉町で、これからものびのび育ててほしい etc....

檜葉にあったらいいなと思うもの

- 小児科
- 習い事教室(英会話、書道、体操教室等)
- 町外の病院や習い事への送迎
- 体調不良でこども園を休まなければならない時の子どもの預け先
- 親の緊急時に子どもを預かってくれる所 etc....

ファミリーサポートセンター事業の再開に向けて

檜葉町社会福祉協議会では、ファミリーサポートセンター事業の再開を今後予定しています。今回の座談会で、皆さんからは「仕事が終わる時間まで子どもを見てもらえたら」「病児保育的なものがあれば助かる」「気楽な制度として使えたらいい」「町外の病院や習い事の送迎にも利用できれば」等の貴重なご意見をいただきました。今後、皆さんのニーズにあった柔軟な事業づくりに向けて準備を進めてまいります。



今回子ども連れのパパやママも多く、ボランティアの皆さんが子どもたちの遊び相手をしてくださりとても和やかな座談会となりました。パパやママが孤立せず、地域で子育てを支え合える関係づくりに向けて今後も地域の皆さんと一緒に考えていきたいです。なお、**今回の座談会の内容は1月20日(土)に開催する「ならコレ2023(檜葉町地域包括ケアシステム構築推進シンポジウム)」でも紹介されます!**

fromほうかつ ころむ

センター長 磐城 美樹



2024 私の今年の抱負

檜葉町の子育て支援、介護、福祉に関する最新情報を知り、現在(いま)を見つめ、今後(これから)の活動について考え合うことを目的とした、「檜葉町介護・福祉サービス事業所連絡会」を先月開催しました。

実に様々な分野の支援者が集い、活発な意見交換がなされ、「みんなで支え合い 幸せを実感できるまち」の実現に向けてネットワークの重要性を改めて感じました。そこで、私の今年の抱負・・・

各分野の垣根を越えて「和気あいあい」と活動したい!

今年もどうぞよろしくお願いいたします!

和気
あいあい



～ みんなの今年の抱負 2024 ～



主任介護支援専門員
兼認知症地域支援推進員 江尻

一味同心



社会福祉士 渡邊



切磋琢磨



生活支援コーディネーター 小林

良質睡眠



素朴な疑問コーナー

Q. ファミリーサポートセンター事業って?
A. 利用会員(子どもの送迎や預かり等をお願いしたい方)と、提供会員(依頼を受けて子どもを預かることができる方)を、社会福祉協議会が仲介して支え合う仕組みです。提供会員には一定の講習が必要となります(今後、事業再開予定です)。